

# 詩誌「炮氓」解題・総目次

楠 田 剛 士

## 一、概要

雑誌「炮氓」（ほうぼう）は、一九六八年九月に創刊され、一九七七年一二月の五一号まで続いた詩誌である。山田かんを中心に長崎県内の詩人が集って同人活動を行い、県外・同人外からも作品が寄せられた。

編集は一く四七号が山田かん、四八く五一号が入江昭三が務めた。一九三五年生まれの山田と一九三三年生まれの入江は同世代で、長崎原爆で被爆した山田は長崎県立長崎図書館で働きながら、満洲から引き揚げてきた入江は職を転々としながら創作を行った。

一く三三号までは編集・発送・同人費の徴収など全ての事務を山田が行い、発行所の炮氓社も山田宅であった。山田の多忙を理由に、三四号から編集事務の発行者を山田が、同人費などを扱う事務局を入江が分担するが、発行所は山田宅のままであった。四八号から終刊五一号までの約七ヶ月間に出た四号はすべて入江が担い、発

行所も入江宅に変更された。終刊号のあとがきは山田が書いていることから、山田が最後まで「炮氓」の中心的存在であった。

創刊号の奥付に「隔月刊」と記されているように、当初から継続的な刊行が意識されていた。原爆特集号として七月に刊行するためにあえて一月遅らせた一一号もあるが、終刊までの約九年間はほぼ隔月で刊行された。その苦勞はたびたびあとがきで触れられるが、「書くことの意味を常に問いつめていなければならない」（八号あとがき）と山田はあくまで作品の質に気を配った。表紙が創刊から終刊まで、誌名、刊行年月、号数、目次だけで、表紙絵がつかずカットさえなかったことも作品本位の姿勢が窺える。

印刷所は、一く三三号までは三和軽印刷工業有限公司。山田が以前編集していた詩誌「橋」の一三く一六号（終刊）と同じ印刷所であった。印刷費の値上げから三三三号から昭和堂印刷に変更された。

価格は非売だが、同人以外にも送っていた（一九号あとがき）。県

内外の個人やグループから受贈された詩誌・詩集の紹介もしばしば行われた。同人費は月額七〇〇円で（八号から明記）、物価高騰・印刷費・郵送費の値上げから一〇〇〇円になり（二二号あとがき）、七六年一月からは一五〇〇円になった（四〇号あとがき）。四一号から一口二〇〇〇円の詩友制を導入し、同人外からの経済的な支援も受けた。誌友は五一号の時点で三八名で、鎌田定夫、栗原貞子、後藤みな子、中里喜昭、長岡弘芳、野呂邦暢らがいた。

## 二、詩誌「橋」と長崎県詩人会

誌名の「炮氓」は山田の造語である。創刊号のあとがきで山田は、「やかれるたみ」「炮烙の刑」に処せられた無辜の民を象徴として、この小さな詩誌の出発としたい」と説明し、「「られる」とか「られた」とか「被」の受身ではなく、一九四五年夏より二十三年後のいま」を「直視する目を磨」くことの重要性を述べている。創刊号からかなり経ってから掲載された会の内規でも「炮氓」は原爆に象徴される戦争の悲惨を凝視しつつ、未来への展望を拓こうとする同人によって構成される」（四五号）と書かれている。

原爆を過去の問題ではなく「いま」の問題としてとらえようと「凝視」する山田の姿勢は創刊から一貫している。さらにはいえば「炮氓」以前から続くものである。サークル誌「芽だち」（五二〜五九年）、文学同人誌「地人」（五五〜五八年）、詩誌「橋」（六一〜六五年）に参加し、詩と評論で原爆問題を繰り返し書いてきた。「橋」を編集していた山田は、「炮氓」を「橋」の後継誌と位置づけ、「今度は「橋」などとあいまいな誌名でなく、明確な理念の内容を表現

している表題を作ろうと種々考えた」（二三号あとがき）と述べている。確かに「橋」の会則には「本会は、自己の主体性と必然性をもって詩に全ての生命を燃焼させよう」と志向するものの拠点である（「橋」一号、一九六一年一月）とあり、先の「炮氓」の内規がいかにも原爆・戦争を意識したものがわかる。

「炮氓」には原爆以外にも多様な作品が掲載されたが、反原爆や戦争体験に関わる作品はほぼ毎号見られる。一一号で被爆二五年特集、二八号で二八年特集、三八号で三〇年特集を組み、また特集の形ではなくても夏前には作品投稿を呼びかけた。「炮氓」掲載作から山田が選んだものが、太平出版社から刊行された『日本原爆詩集』（一九七〇）に再録されている。

「橋」から原爆というテーマを継続をする一方で、山田は「以前の「橋」の同人は意識して参加を求めなかった。それが当初からの出発の方針であった」（二三号あとがき）とも述べ、あくまでも新しい詩誌として始めたことを強調している。ただし「橋」の執筆者が、全く「炮氓」に書かなかったわけではなく、伊福重一、風木雲太郎、塚本貞一、深江福吉、山脇敏宏、横山隆らが、しばらく経つてから「炮氓」に作品を寄せている。

新しい同人として注目したいのは、長崎県詩人会の詩人たちである（東佐和子、池田慶子、伊福重一、今長宣子、入江昭三、上滝望観、風木雲太郎、木下和郎、木本昭彦、塚本貞一、福江福吉、藤維夫、山口宏、山田かん）。長崎県詩人会は、六四年に長崎県立長崎図書館で結成された。図書館に務めていた山田が幹事長となり、会員のアンソロジーである『66長崎詩集』の編集も担当した。ここで関わりができた詩人たちに「炮氓」への参加を促したのだと考えられる。

詩集のカバー装丁は写真家の原田正路だが、「炮唄」四六号は原田の写真特集を組んでおり、ここにも詩人会との関わりが見られる。

山田は『'66長崎詩集』のあとがきで、「長崎県における詩文学創造活動の現況」を「記録に刻み付ける」意味を述べている。六八年から始まる「炮唄」も、先に引用したように「一九四五年夏より二十三年後のいま」を「直視する目」（創刊号あとがき）としての記録性が意識されている。ただし、詩集に関して山田は「参加者の面で十分に成功したとは云えない」（『'66長崎詩集』あとがき）と不満があったようで、後年の回想でも「今だに苦い思いをするのは、この詩集に参加者をも含めて幹事たちも親身の協力関係がなかったことであった」（長崎における反原爆の表現——現代詩にみる系譜（九）、「炮唄」二三号）とも述べており、こうした編集の苦い経験から、「炮唄」では積極的に「協力関係」を求めたのだとも考えられる。高い創作意識を持った人々の「炮唄」への参加は、掲載された作品の、やや難解で観念的ともいえる傾向に反映している。

こうして「橋」からテーマを引き継ぎ、長崎県詩人会からの書き手の参加から始まった「炮唄」は少しずつ同人を増やししながら、長崎県内外の詩人のネットワークを形成していった。

### 三、同人活動の展開

原爆・戦争が大きなテーマだったとはいえ、それだけが「炮唄」に掲載されたわけではない。宮原隆之助は小児麻痺の娘について、入江昭三は大陸での孤児体験・引揚体験についての作品を多く残し、中川弘美は廃坑という新しいテーマを雑誌にもたらしした。のち

に浦上燦祭説批判で知られる高橋真司も、城取真司のペンネームで詩を書いたり、本名で評論を書いたりしている。同人外では、中里喜昭（一三、二八、四三、四四号）、栗原貞子（一四、二八号）、野呂邦暢（三八、五〇号）の寄稿が注目できる。

初期の同人は、山田と同世代の、戦争を体験した者が多かったが、「炮唄」発行当時三〇代後半から四〇代にあたり、それぞれの仕事や家庭の事情を反映する作品や、出産や引越に伴う同人の異動があった。創刊時から今長宣子、東佐和子ら女性の書き手が積極的に書き、のちに紅河知沙、島田とも子、中原宏子、柳生じゅん子らが加わった。

新同人は一九号（七二年一月）頃から増加し、それに伴って二二号から同人名簿が掲載されるようになった。二二号までは詩は一段組み、エッセイは二段組みだったが、二二号からは詩も二段組みとなっている。同人が増え、より多くの作品を掲載するためであろうが、掲載ページにかかる印刷費をおさえるための方策でもあっただろう。また、雑誌を発行した後、合評会を行い、その記録を次号に掲載していたことも主な同人活動となっていた。はじめは山田の自宅や県立図書館で行われることが多かったが、諫早、佐世保、島原の同人が増えてくると各地から集まりやすい諫早で行うこともあった（二七号）。その他、同人消息欄は三四号から始まり、「炮唄」以外での同人の活動を紹介する。受贈詩誌、詩集の紹介は二九号から始まり、その数を増やしていった。

こうした活発な会のあり方は山田にも刺激を与えたようだ。『'66長崎詩集』出版以来一〇年ぶりのアンソロジー企画を立ち上げ（三二号あとがき）、同人が多く参加した『75長崎詩集』を刊行した。

三六号あとがきでは、「次三十七号に若い世代の作品を発表する予定である。(略) 同人消息にも見えるが、他誌へも積極的に出ていく同人が増えている。実力を備えて良い作品へ精進して欲しい」と述べ、若い書き手や「炮唄」以外での同人活動を後押ししている。

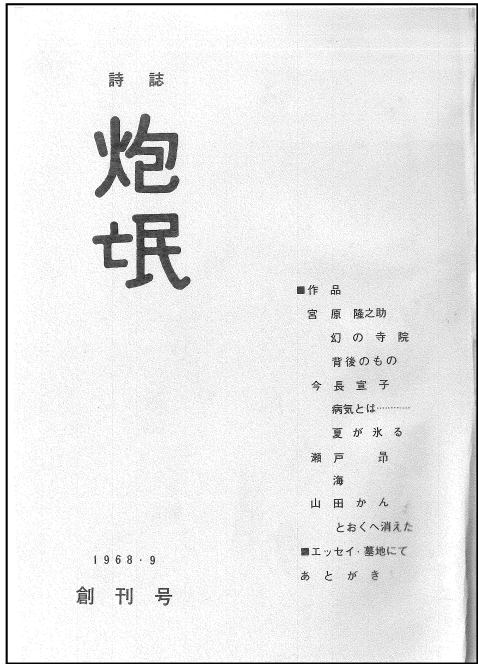
さらに雑誌で取り上げるテーマも拡大した。例えば、鎌田信子の翻訳掲載について(※「炮唄」は) 枠を限定すべきでないし出来れば広範なスタイルを包括したいと願っている(二〇号あとがき)

と述べ、山田の妻の香月和子による平和教育のエッセイについて「詩誌としては外れていると思うが、雑誌の存在理念としてもあることであり」「詩誌の枠をあえて破って載せることにした」(二〇号あとがき)と述べ、中川弘美の廃坑というテーマについて「炮唄」の意味するものと、廃坑の問題は同次元においても捉えられると思っている(三二号)と述べるなど、積極的にテーマを広げようとしている。四二号のあとがきでも、「こうして同人間のみ閉鎖することなく、詩誌をひとつの表現の場として展げていくことも、ひいては詩誌の活動の場を底部より揺り醒し、常に新しく見つめ直すことによすがとなるだろう」と、同人とテーマの拡大を評価する。

しかし実際にはそれを続けることは難しかったようだ。鎌田も香月も一回だけの掲載に終わり、中川も入院に伴い退会する。一七号の発行遅れが「編集者の多忙と共に、「原爆の問題にテーマを据えて」という希みが原稿の集りをにぶらせたようである」(一七号あとがき)と述べてもいるように、詩における原爆作品は少なくなっていく。同人の増加や、「炮唄」外での活動の活発化は、雑誌の充実ぶりを示す反面、出発にあった原爆というテーマの希薄化を映し出すものでもあった。

やがて同人の盗作問題が起こり、「炮唄」は終刊を迎える。本誌において問題は触れられておらず、山田の後年の回想でも明確に述べているわけではないが、「編集者として、そういうものを発見できなかったという恥ずかしさがありました。それで、自分自身で「炮唄」を解体するしかなかった」と終刊事情を説明している(敍説編集部「インタビュー 記憶の固執……山田かん氏に聞く」「敍説」一九、一九九・八)。

苦しい結末を迎えたが、「炮唄」が山田にもたらしたのはそれだけではないだろう。山田には私家版や全詩集も含めて九冊の詩集があるが、「炮唄」を編集発行していた期間に、『記憶の固執』(一九六九、『ナガサキ・腐食する暦日の底で』(一九七二)、『アスファルトに仔猫の耳』(一九七五)の三冊を刊行し、『記憶の固執』で第一回長崎県文芸賞を受賞した。終刊後に出した『予感される闇』(一九八一)は「炮唄」掲載の詩を収録している。評論においても、「炮唄」に連載した「長崎における反原爆表現——現代詩にみる系譜」が、八四年に『長崎・詩と詩人たち——反原爆表現の系譜』(汐文社)にまとめられ、長崎の戦後詩史、原爆文学史として現在も重要な書となっている。山田の永井隆批判としてよく知られる「聖者・招かざる代弁者」も、雑誌「潮」一九七二年七月号に発表されている。「炮唄」の刊行期間は、山田の詩作・評論における充実期にあった。原爆問題の忘却に抗い続けた山田かんの仕事は「炮唄」抜きに考えることはできない。



凡例

一、本総目次は、「炮氓」所収の文章を掲載された順序で作成したものである。「炮氓」五一号の総目次は略記部分があるため、本総目次では全ての作品、エッセイの標題を掲載し、広告も原則掲載した。

一、原本の号数は表紙と奥付では「No.」で表記されるが、本文中では「□号」と表記されるため、本総目次では便宜上「第□号」とした。

一、特集がある場合は、号数、発行年月日に続けて記した。

一、各項目は、基本的に分類、標題、著者名、掲載頁の順で記し

た。標題や副題が表紙目次と本文表記で異なる場合は本文表記に拠った。

一、掲載が二頁以上にわたる場合は、開始頁・終了頁としている。別の頁に飛ぶ記事については、読点に続けてもう一つの頁数を記した。

一、あとがきは署名があるものは記したが、無署名は山田かんによるものである。

一、\*は編者による注記。

※本総目次は、故山田かん氏所蔵の原本資料を借用し作成された。閲覧の便宜をはかってくださった山田貴己氏に記して感謝申し上げます。

編集 山田かん 長崎県西彼杵郡長与村西田原団地三二山田

かん方（一・四七号）

入江昭三 長崎県諫早市福田町二八二八・四（四八・

五一号）

炮氓社（八号から記載）

発行 三和印刷工業有限会社（一・三二二号）

昭和堂印刷（三三・五一号）

頒価 非買

同人 東佐和子、池田慶子、伊崎周介、伊福重一、今長宣子、

今村冬三、入江昭三、上滝望観、熊田力、紅河知沙、

古藤正和、島田とも子、瀬戸昂、高橋真司、たけした

しげる、都築修三、中川弘美、中原宏子、西敏男、平

島礼二、藤維夫、松島章子、宮原隆之助、向井治、梁井馨、山口宏、柳生淳子、山田かん、山本まこと、横山隆

(\*熊田、高橋、たけした、梁井は詩友に移行)

澤村光博、早川雅之、小国力、栗原貞子、森崎昭生、中里喜昭、鎌田定夫、細川章、熊田力、佐藤香、松岡昭彦、板井蓮生、塚本貞一、タマキケンジ、坂井信夫、青井孤人、長岡弘芳、柏木恵美子、入江勇、大石健、田中礼次郎、浜崎均、木下豊房、田中俊廣、逢坂収、後藤みな子、野呂邦暢、竹下茂、江口宣、植田昇、広瀬洋爾、松隈一輝、松本武司、高野弓子、小林緑明、江島弘美、梁井馨、高橋真司

(\*五一号に掲載された詩友名簿による)

第一号(創刊号) 一九六八年九月一五日 発行

作品	幻の寺院	宮原隆之助	2	3
	背後のもの	宮原隆之助	4	5
	病気とは	今長宣子	6	7
	夏が氷る	今長宣子	8	7
	とおくへ消えた	山田かん	9	11
	海	瀬戸昴	12	13
	墓地にて	山田かん	14	16
	エッセイ		14	16
	あとがき		16	17
奥付			17	17

\*2が表紙裏。

第二号 一九六八年一月二五日 発行

作品	むかしがたり	入江昭三	1	3
	むこうに行くとき	今長宣子	4	5
	悼むうた	宮原隆之助	6	8
	童話Ⅲ	山田かん	9	9
	遠い聲音	宮原隆之助	10	11
	行こか戻るか	山田かん	12	14
	あとがき		15	15
奥付			15	15

\*今永宣子は今長宣子のこと。以下同じ。

第三号 一九六九年二月一五日 発行

作品	運動へ	今永宣子	1	2
	盗み	今永宣子	2	3
	鳥の伝説	宮原隆之助	4	5
	門のように	宮原隆之助	5	8
	詩人よ、答えよ	入江昭三	9	11
	帰路	山田かん	12	13
	五人の子供達	山田かん	14	20
	エッセイ		14	20
	あとがき		20	20
奥付			20	20

奥付

20

第四号 一九六九年四月二五日 発行

作品

遭遇

入江昭三

1 | 4

お願いですから……

東佐和子

4 | 7

西坂の丘

山口宏

8 | 11

あるプロローグから

宮原隆之助

12 | 13

十五才の就職

今永宣子

14 | 15

最後のとき

今永宣子

15 | 16

長い道を……

山田かん

16 | 20

広告

上村肇第二詩集『みずうみ』

宮原隆之助

21 | 22

エッセイ

詩集「みずうみ」に寄せて

宮原隆之助

22 | 22

奥付

第五号 一九六九年六月二五日 発行

作品

長恨歌

入江昭三

1 | 4

拒む風景の中で

宮原隆之助

5 | 9

こんな具合に

東佐和子

10 | 13

倒壊または独りの唄

山田かん

14 | 16

遠近の因

山田かん

17 | 20

エッセイ

山口宏詩集『風象』

山口宏

20 | 20

広告

山口宏詩集『風象』

山口宏

20 | 20

奥付

第六号 一九六九年八月二五日 発行

作品

癌患者

今永宣子

1 | 2

絆

今永宣子

2 | 3

蝶断章

宮原隆之助

4 | 5

海蝕

山口宏

6 | 7

かまきり

東佐和子

8 | 10

飢餓の記憶

入江昭三

11 | 13

女・鳥の首

山田かん

14 | 15

エッセイ

山口宏詩集『風象』・評

木下和郎

17 | 17

広告

山口宏詩集『風象』

山口宏

17 | 17

あとがき

象徴の解体

西村豊行

18 | 19

エッセイ

燎原同人総会のお知らせ

西村豊行

19 | 19

案内、広告

山田かん詩集エッセイ集『記憶の固執』

山田かん

20 | 20

奥付

山田かん詩集エッセイ集『記憶の固執』

山田かん

20 | 20

第七号 一九六九年一〇月二五日 発行

作品

へへのもへじの唄

東佐和子

1 | 6

死に関する断片―父に―

宮原隆之助

7 | 9

日常

今永宣子

10 | 10

糸瓜

山田かん

11 | 12

エッセイ

体験なんて?!

山田かん

13 | 15

あとがき  
奥付  
裏表紙裏 15

第八号 一九六九年二月三十一日 発行

作品 夏に逝った友に 中原宏子 1、2

広告 入江昭三詩集『呪縛』 2

作品 掌の中の地図 宮原隆之助 3、5

広告 山口宏詩集『風象』 5

作品 いん・ぱれすちな 入江昭三 6、8

広告 山田かん詩集エッセイ集『記憶の固執』 8

作品 だれも なんにも 山口宏 9、10

ねおるいじんえん 深江福吉 11、12

復興 今長宣子 13

境界線 植田孝行 14、15

半島 山田かん 16、18

あとがき 裏表紙裏 第一一号

奥付 裏表紙 長崎被爆二十五年特集

第九号 一九七〇年二月二十五日 発行

作品 この川の囲い―浦上川― 東佐和子 1、3

なぞなぞ 宮原隆之助 4、6

旅立ち 中原宏子 7、8

奥付  
裏表紙裏 12、14

第一〇号 一九七〇年四月二十五日 発行

作品 森林伝説 入江昭三 1、4

パントマイム・混沌 山口宏 5、6

サヨナラのうた 宮原隆之助 7、8

領分 中原宏子 9、10

人物柱Ⅰ 東佐和子 11、13

断片連続的……… (\*そのⅡ) 山田かん 14、16

あはれあはれの挽歌がきこえる 山田かん 17、20

あとがき 奥付 裏表紙 20

八月の天 山口宏 1、2

接近 宮原隆之助 3、5

おしゃべりな時代 今長宣子 5、6

戯れうた 今長宣子 6、7

キヤベツ畑で 中原宏子 8、9

にがい朝 宮原隆之助 10、11



Post I (\*手紙)  
 作品 海幸 入江昭三 11  
 幸運の葉 入江昭三 12  
 長イ日ノ底カラ声ガ…… 山田かん 13  
 二十五年目の夏 東佐和子 14  
 げんぱく 山田直己 17  
 長崎被爆二十五年の視点 山田かん 21  
 (\*手紙) 山脇敏宏 26

第一三号 一九七〇年二月一五日 発行

作品 天災 中里喜昭 1  
 門のように 宮原隆之助 4  
 心がわり 中原宏子 6  
 白い胸 東佐和子 7  
 わが歳時記―冬の章 入江昭三 9  
 恋唄 今長宣子 13  
 軍艦 山口宏 17  
 腐蝕する暦日の底で または 山田かん 19  
 浦上の……… 山田かん 21  
 エッセイ ヒロシマが存在する 山田かん 24  
 あとがき 裏表紙裏 30

第二二号 一九七〇年九月二五日 発行

作品 わが歳時記―秋の章 入江昭三 1  
 マーケットへ 中原宏子 4  
 風立ちぬ―いざ生きめやも 宮原隆之助 5  
 螢の亀裂 今長宣子 6  
 人物柱Ⅱ 東佐和子 8  
 少年の球 山口宏 9  
 帰郷・一九七〇 山脇敏宏 10  
 視る 山田かん 13  
 レポート 八月 西宮・広島 山脇敏宏 14  
 十二号合評会案内 裏表紙 24  
 奥付

第一四号 一九七一年二月二〇日 発行

作品 執筆者住所録 裏表紙裏 30  
 広告 入江昭三歌集『地の花』 裏表紙裏  
 奥付

絶後か―長崎の友に― 栗原貞子 1  
 北平亭附近 東佐和子 4  
 蝶について 宮原隆之助 7  
 ひとつの椅子 宮原隆之助 8  
 紙の月 中原宏子 10  
 五島・奥浦にて 山田かん 12  
 裏表紙 15

エッセイ 「長崎聖公会略史」のことなど… 山田かん  
 あとがき  
 奥付

16  
22  
裏表紙

エッセイ 長崎における反原爆の表現  
 —現代詩にみる系譜(二)— 山田かん  
 あとがき  
 奥付

18  
27  
28  
裏表紙

第一五号 一九七一年四月二〇日 発行

作品 呪文

チハルねえちゃんのこと

中原宏子  
宮原隆之助

2  
4

第一七号 一九七一年九月二〇日 発行

無題

山口宏

5

作品 のこされた

今長宣子

1

椿

今長宣子

6  
7

影への帰郷

入江昭三

2  
4

記憶の手

東佐和子

8  
10

墓と裸木とカラスと

宮原隆之助

5  
8

エッセイ

長崎における反原爆の表現

山田かん

11  
22

エッセイ

幕間

中原宏子

9  
10

—現代詩にみる系譜(一)—

エッセイ

幕間

山田かん

11  
12

あとがき

裏表紙

あとがき

長崎における反原爆の表現

山田かん

13  
23

奥付

第一六号 一九七一年六月二五日 発行

作品 児童憲章

宮原隆之助

1  
3

奥付

入江昭三歌集 『地の花』

山田かん

23

わが歳時記—春の章

入江昭三

4  
7

広告

山田かん詩集 『ナガサキ・腐蝕する暦日の底で』

山田かん

23

痲癩のかお

今長宣子

8  
9

広告

山田かん詩集 『ナガサキ・腐蝕する暦日の底で』

山田かん

23

地動説

中原宏子

10  
11

奥付

山田かん詩集 『ナガサキ・腐蝕する暦日の底で』

山田かん

23

夜から朝

山口宏

12  
13

作品

第一八号 一九七一年二月二〇日 発行

山口宏

1  
4

ナガサキ迷路

浜田龍郎

14  
15

作品

秋と子の四題

山口宏

1  
4

時の構図

山田かん

16  
17

作品

秋と子の四題

山口宏

1  
4

影の中の故郷

入江昭三 4・7

十五歳

山田かん 7・9

花の寺

中原宏子 10・11

エッセイ

反歌(戦)の思想

宮原隆之助 12・21

長崎における反原爆の表現

—現代詩にみる系譜(四)

山田かん 21・27

あとがき

広告 塚本貞一詩集『私の詩集』

広告 山田かん詩集『ナガサキ・腐蝕する暦日の底で』

奥付 \*27が裏表紙裏。

裏表紙

第一九号 一九七二年一月三〇日 発行

作品 その前夜

宮原隆之助 1・4

姿勢

梁井馨 6・7

穩地郡五箇村飛地

入江昭三 8・9

セブンティーン

中原宏子 10

エッセイ

「反歌(戦)の思想」へのアプローチ(\*手紙)

—現代詩にみる系譜(五)

山田かん 11・22

広告

境忠一詩集『ものたちの言葉』

あとがき

奥付

境忠一評論集『詩と土着』 裏表紙 22

第二〇号 一九七二年四月五日 発行

作品

死・その断章

グッド・バイ

はしばみ

記憶について

長崎・諏訪荘にて

ベトナムへの愛(第一回)

郁達夫論

(\*無題)

長崎における反原爆の表現

—現代詩にみる系譜(六)

あとがき

\*「ベトナムへの愛」は一回のみ。

第二一号 一九七二年六月五日 発行

作品

桜花幻想

Breakfast

こわい夜

野犬狩

山口宏 1・2

宮原隆之助 3・5

入江昭三 6・7

梁井馨 8・9

山田かん 10・12

エディタ・モリス、

鎌田信子訳 13・18

郭沫若、

奥村孝亮訳 19・28

山田かん 28

山田かん 29・41

裏表紙 41

研ぐ

梁井馨 12、13

エッセイ 長崎における反原爆の表現

少年の球・Ⅱ

山口宏 14、15

——現代詩にみる系譜（八）

山田かん

19、29

エッセイ

残酷な季節に

山本まこと 16、18

同人（執筆者）住所録

長崎における反原爆の表現

山田かん 18、25

あとがき

裏表紙

——現代詩にみる系譜（七）

あとがき

奥付

裏表紙

第三号 一九七二年一〇月五日 発行

\*25が裏表紙裏。

第二二号 一九七二年八月五日 発行

作品

夏のさかり

木本昭彦 1、2

作品

進撃

山本まこと 5、8

ブルース

山本まこと 2、4

エッセイ

秋草ふたつ

山田かん 9、15

朝の劇

山口宏 4、5

エッセイ

平和教育とPTA活動

香月和子 9、15

バスの中で

宮原隆之助 5、6

広告

伊福重一第一詩集『炎える船』

祭り

堀理恵 6、7

エッセイ

長崎における反原爆の表現

山田かん 16、26

夜半の仕事

東佐和子 8、9

——現代詩にみる系譜（九）

山田かん

沈むプラタナス

山田かん 10、11

（\*野田欣三の死去について）

（\*山田かん）

エッセイ

二〇・二一号——合評会の記——

入江昭三 12、13、29

あとがき

裏表紙裏

酷薄な歌のために——A君へ。

山本まこと 14、18

奥付

裏表紙

広告

高谷重治・長崎の証言の会編『爆心の丘にて

第二四号 一九七二年一二五日月 発行

——山里・浜口地区原爆被災誌——

秋月辰一郎『死の同心円——長崎被爆医師の記録——』 18

作品 ある背景

山口宏

1

吃った話

梁井馨

2 / 3

あとがき

酩酊

山本まこと

4

奥付

裏表紙

夢の島の船―第五福竜丸―

伊福重一

5

不帰河

入江昭三

6 / 7

第二六号

一九七三年四月一五日 発行

闇瞑の涯にして

山田かん

8 / 9

エッセイ

長崎における反原爆の表現

山田かん

10 / 21

作品

星がみえる日の物語

上滝望観

1 / 6

エッセイ

―現代詩にみる系譜（二〇）

山田かん

10 / 21

執筆者同人住所録

農夫

伊福重一

6

あとがき

蛇

伊福重一

8 / 9

奥付

父

梁井馨

7

第二五号

一九七三年二月五日 発行

残照

山口宏

10 / 11

作品

鞭か雷鳴かしらず

山本まこと

1 / 5

崎戸にもビルディングがあつて

入江昭三

11 / 13

作品

影踏み

山田憲和

6 / 7

つねに雷を友とせよ

山本まこと

13

作品

おんなのうた

梁井馨

8

ジョニー・ウオーカーと仇名するため松尾智に

山本まこと

14

作品

自転車

山口宏

9

鉄道員のたむろする居酒屋で

山本まこと

14

作品

墓地にて

入江昭三

10 / 11

長崎における反原爆の表現

山田かん

15 / 29

作品

病室にて

宮原隆之助

12

―現代詩にみる系譜（一一）

山田かん

29

作品

山茶花

恒河知沙

13

奥付

裏表紙

30

作品

終着へ

山田かん

14

奥付

裏表紙

30

エッセイ

合評会についての走り書き

山本まこと

15

第二七号 一九七三年六月二五日 発行

山口宏

1

エッセイ

長崎における反原爆の表現

山田かん

16 / 27

朝の横断歩道で

山口宏

1

執筆者同人住所録

―現代詩にみる系譜（一一）

山田かん

16 / 27

朝の横断歩道で

山口宏

1

執筆者同人住所録

―現代詩にみる系譜（一一）

山田かん

16 / 27

朝の横断歩道で

山口宏

1

執筆者同人住所録

―現代詩にみる系譜（一一）

山田かん

16 / 27

朝の横断歩道で

山口宏

1



作品	March out	向井治	1	2	作品	新年のことば―体験と想像	風木雲太郎	1
	皺の倫理	たけしたしげる	2			廃坑へ	中川弘美	2
	双脚のうみの歌	たけしたしげる	3			はも女 子守唄	中川弘美	3
	冬の貌	たけしたしげる	3			波止場について	上滝望観	4
	蚯蚓	山口宏	4			彼方―J・コルトレーンに	向井治	5
	花の笑い	東佐和子	5			船が出る朝	瀬戸昂	6
	仲秋	梁井馨	6			借りたもの	今村冬三	7
	醜聞	入江昭三	7	8		かまきり	今村冬三	7
	秋の一日	瀬戸昂	8	9		（ルアン）にて	山本まこと	8
	作った方が得た	伊福重一	10			多良と娘と彗星と	入江昭三	9
	路上	山本まこと	11	12		猿	伊福重一	10
	秋のかたちについて	上滝望観	12	13		空	島田とも子	11
	飛ぶ跳ぶ	山田かん	14	15		椿	たけしたしげる	12
エッセイ	現代詩について	伊福重一	16	17		ここごと	たけしたしげる	12
受贈詩誌			17			夕暮のしんじつの昏さ	城取真司	13
エッセイ	別府の暑い夏		17			霧水	紅河知沙	14
	第三回九州詩人祭参加の記	入江昭三	18	20		雑感	山田かん	15
	風信	たけしたしげる	20	21		ある吐血	山田かん	15
あとがき			21			遺書	東佐和子	16
同人住所録			21			犬継へ行く	西敏男	17
奥付			22				山田かん	18
							山口宏	19
								20
								21
								24
								25
								25

奥付

\*恒河知沙は本号から紅河知沙と表記。

\*25が裏表紙裏。

第三一号 一九七四年四月一五日 発行

作品

北松炭田	中川弘美	1	2
坑夫のための鎮魂歌	中川弘美	2	3
つめたい背のあちら	東佐和子	4	5
斜度	山口宏		
目の椅子	向井治		
廃坑の中で	梁井馨		
決議	梁井馨		
如月投壘	山本まこと		
風	都筑修三		
舗装されて	今村冬三		
こころの季節は冬にむかう	城取真司		
髪の毛もだえの連想	城取真司		
習慣について	中原宏子		
ちいさい枯草について	上滝望観		
野犬	伊福重一		
鴉	伊福重一		
絞暗の季節	伊福重一		
みぞささい	たけしたしげる		
未明から	たけしたしげる		
	島田とも子	17	

裏表紙

受贈詩誌

エッセイ

受贈詩集

エッセイ

小峰町交叉点にて

山田かん

18

落書

上滝望観

19

公教信徒・被爆の意味するもの 光河知沙

21

長崎における反原爆の表現

山田かん

22

— 現代詩にみる系譜(二三)

山田かん

23

同人住所録

裏表紙裏

あとがき

裏表紙裏

奥付

裏表紙

\*光河知沙は紅河知沙のこと。

第三二号 一九七四年六月一五日 発行

作品

山本まこと詩集『海にのこす指紋よ急げ』	宮原隆之助	1	2
植物人間譚			
父・三題(*もう一人の父、			
臥する父、死んだ筈の父が)	伊福重一	2	3
密やかな降口について	島田とも子		
稲妻	入江昭三	5	6
鳶	城取真司	6	7
無題 日氏「彼岸花図」によせて	今村冬三	8	9
三十年			
折鶴	たけしたしげる		
ある老者のクロッキー	たけしたしげる		
		10	



そのときのために

祝日

空

或る春の日に

認識

村のさみだれ

あくら話

投擲手帳

受贈詩集

エッセイ

あとがき

奥付

作品

第三三号

一九七四年八月一〇日 発行

作品 崎戸島幻記

白い闇

(\*三二号訂正)

作品 薄緑色の窓の向う

石のほほえみについて

爪よ

尾羽を他国に打ち枯らす

エドワルド・ムンク嫌い

酩酊の余地

山本まこと

中原宏子

山口宏

東佐和子

梁井馨

中川弘美

たけしたしげる

山本まこと

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

山田かん

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

孤独を梔子にして

げんばく・兄

海牛

輔ふたご

北松・小値賀島へ

局外者の位置

エッセイ

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

局外者の位置

城取真司

伊福重一

たけしたしげる

たけしたしげる

山田かん

熊田力

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

伊福重一

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

エッセイ	三十三号合評会略記	入江昭三	8				
作品	馬の眼	伊福重一	9	第三五号	一九七四年二月二〇日	発行	
	ノウリンショウニダマレサレタ	伊福重一	9				
	風の熟する頃	島田とも子	10	作品	ひとつの影について	上滝望観	1
	領収証	今村冬三	11		草と口笛	入江昭三	3
同人消息			12		駐車場にて	中原宏子	5
作品	竹仙人	たけしたしげる	13	受贈詩誌			6
	飛竜の爪	たけしたしげる	13	作品	否定が不意に	島田とも子	7
受贈詩誌	出発のこと・生活のこと	城取真司	14		像を撃つ	今村冬三	8
作品	夏の匂い	山口宏	15		動物詩抄	今村冬三	9
	山口宏三十三号作品訂正		15		眼について	東佐和子	10
作品	わが歳時記―夏の章―	入江昭三	17	広告	黒田達也『現代九州詩史』		12
	アスファルトに仔猫の耳	山田かん	18		をさな児	城取真司	13
便り1	(*手紙)	宮原隆之助	19	作品	三十四号合評会の記	K	14
エッセイ	混迷の原爆忌俳句	田中礼治郎	20	エッセイ	逃げられない話	横山隆	15
便り2	(*手紙)	梁井馨	21	作品	駅前劇場感傷記	梁井馨	16
受贈詩集	非文学的カルチュア		22	同人消息	幼年くずれ節 ある日の会話		17
エッセイ	―轟龍造「日課」批判―	山田かん	24	作品	にふれて青井氏に	山本まこと	18
便り3	(*手紙)	山本まこと	24		記憶	伊福重一	19
エッセイ	長崎県詩人会のことなど		25		石を投げる	山口宏	20
同人住所録			30		屑 短抄	山田かん	21
あとがき			30		赤い舟	たけしたしげる	22
奥付			30		蟻	たけしたしげる	23
			裏表紙裏		堆積	たけしたしげる	24
			裏表紙			向井治	25
							26

	カンボジヤの飯盒	山田かん	27																		
	雑感	K	28																		
	エッセイ																				
	同人住所録																				
	あとがき																				
	奥付																				
	第三六号																				
	一九七五年二月二五日																				
	発行																				
広告	山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』	藤維夫	表紙裏																		
作品	男	紅河知沙	裏紙裏																		
	五島にて																				
受贈詩誌	第三十五号台評会の記	K	3、5																		
エッセイ	破船の記憶―その痛みは生きて		3																		
作品	いるしるし	宮原隆之助	裏紙裏																		
	葉書	山口宏																			
	飛竜の夢なけれど……	山本まこと																			
	比良山にて	中原宏子																			
受贈詩集	息子へのバラード	梁井馨	10																		
作品	否の波紋	城取真司	11																		
同人消息	冬の朝	東佐和子	12																		
作品	午後のうらぎりについて	上滝望観	13																		
	雪が降る夜の序詩	島田とも子	14、15、16																		
	洋服職人	横山隆	16																		
	胃袋	横山隆	17																		
	拳銃	たけしたしげる	17																		
	毒茸	たけしたしげる	18																		
	茶毘	伊福重一	18																		
	電	伊福重一	19																		
	くらげ	今村冬三	19																		
	無の象	入江昭三	20																		
	詩人Kへの悼歌	山田かん	21																		
	『アヴアンギャルド芸術―魔法の馬―』	山田かん	22																		
			23																		
			24																		
			28																		
	同人住所録																				
	あとがき																				
	奥付																				
	第三七号																				
	一九七五年四月二五日																				
	発行																				
	上滝望観詩集、																				
	山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』																				
	表紙裏																				
	こんにやく舌頰	たけしたしげる	1																		
	採桑老	たけしたしげる	1																		
	スフ、プロフィール	たけしたしげる	1																		
	長崎詩集一九七五年版の刊行について		2																		
	腐臭	山本まこと	2、4																		
	無言歌	山本まこと	3																		
			4																		

	ステレオ	横山隆	5 / 6			山田かん	28 / 33
	一日について	中原宏子	6 / 7		同人名簿		33
エッセイ	第三十六号合評会記録	伊福重一	7、16、25		あとがき		33
作品	道	藤維夫	8		奥付		
受贈詩誌	受贈詩集		8		*33が裏表紙裏。		裏表紙
作品	この橋に続くべき一本の道	東佐和子	9、10		第三八号 一九七五年七月三一日 発行		
同人消息	虫のような	山口宏	10		—長崎被爆と戦後三十年の生を問う—		
作品	悲しみへの墮落	城取真司	10、11		広告	上滝望観詩集、	
	につぼんの首相	城取真司	11		エッセイ	山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』	表紙裏
	裸踊断章	島田とも子	12		虹	野呂邦暢	1
	湯治場で	梁井馨	13		あの日の僧衣と黒髪と	山口宏	2 / 3
	日曜	伊福重一	14		残痕	梁井馨	4 / 5
	COCa・COLa	赤瀬信吾	14		戦後三十年の歳月	藤維夫	5
	風よ吹け	堂脇敬子	15		同情は遠く蹴り捨てて	今村冬三	6 / 8
	空間	山田千秋	15		絶望なんかしなくたって……	中原宏子	8 / 11
	神などについて	蘭田美穂子	16		詩精神は向きあえたか		
	ちすかばじゃばん	上滝望観	17、18		—長崎被爆三十年の状況—	山田かん	12 / 25
案内	第五回九州詩人祭長崎大会	今村冬三	19、20		受贈詩誌		25
作品	平和記念日	紅河知沙	21、22		受贈詩誌	宮原隆之助	26 / 27
	A氏の持つ鉄の匣	山田かん	23、25		おれの優雅な帰り途	池田慶子	27 / 28
エッセイ	硬質の抒情 山田かん詩集「ア				きりぎりす	今村冬三	29
	スファルトに仔猫の耳」を読む	入江昭三	26、27		君の不倅せは		
	火箭が飛ぶ—山口宏、教育エッ				おぼの命日		
					合掌三十回原爆記念日	たけしたしげる	30

虚脱の対比について

30

茶毘

山口宏

31

雨期に

島田とも子

32

墓碑

藤維夫

33

うかばれぬ

横山隆

34

短艇をこぐ

城取真司

35

飢餓の海

入江昭三

36

エッセイ

第三十七号合評会の記録

島田とも子

37

作品

雪の晩に

伊福重一

38

同人消息

塔について

山田かん

39

エッセイ

九州詩人祭始末記

入江昭三

41

同人名簿

あとがき

44

広告

長崎県詩人会編『長崎詩集一九七五年版』

裏表紙裏

奥付

裏表紙裏

裏表紙裏

第三九号

一九七五年九月三〇日 発行

裏表紙

広告

上滝望観詩集、

表紙裏

作品

山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』

表紙裏

何

もつたいない

横山隆

1

作品

一日の終り

入江昭三

2

作品

太郎の神さま

藤維夫

3

作品

上滝望観

上滝望観

4、5

作品

河口まで

山口宏

5

作品

きめのこまかな詩

山口宏

6

作品

古窯跡

山口宏

7

作品

うわたきもちみ詩集を讀みて

山口宏

7

作品

ぼくの黒い思想

今村冬三

8

第四〇号

一九七五年一月二五日 発行

裏表紙裏

同人消息

北松・生月島にて

山田かん

14

作品

長崎県詩人会編『長崎詩集一九七五年版』

裏表紙裏

裏表紙裏

広告

上滝望観詩集

梁井馨

1、2

作品

晩秋の系譜

梁井馨

3

作品

あやめ花抄

たけしたしげる

3、4

作品

熊川の旅

たけしたしげる

4

作品

ちんぷんかんぷん脱走記

たけしたしげる

4

作品

海へ

池田慶子

5

作品

ポプラ

島田とも子

6

うすあかりの路	上滝望観	7	8	広告	横山隆詩集『はこべらのうたーわが子への書きおきー』、 上滝望観詩集			
どこまでも	藤維夫	8		エッセイ	詩人・今田久さんのこと	森義男	1	6
外	横山隆	9	10	作品	火の窓	島田とも子	6	
エッセイ	宮原隆之助	10	11		空気の椅子(その一)	上滝望観	7	8
作品	風の中	11	12		冬へ	藤維夫	9	
	光耀のなかに	12	13		状態	中原宏子	10	
	車窓に倚れば	13	14		死亡診断書	伊崎周介	11	13
	個体の夏	14	15		トマトの皮が……………	入江昭三	14	15
	同人費値上げについて	15			二月の鴟	たけしたしげる	16	17
作品	蜂蜜	16	16		馬車ひき	たけしたしげる	17	17
	せんそう	16	17		続ちんぶん・かんぶん笑	池田慶子	18	20
エッセイ	十月・蔵王の水Ⅱ	17		受贈詩集		横山隆	21	22
	私の中の長崎	18	23	エッセイ	第四十号合評会の記	宮原隆之助	22	23
	フリー号船長ムーディ氏のこと	23	24	作品	闇の中へ	あゝ 酔っぱらい	22	23
	長崎における反原爆の表現	24		受贈詩誌	友人Hへの返信	今村冬三	24	25
	—現代詩にみる系譜(二六)	25	41	作品	誌友制の発足について	山田かん	26	27
	山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』、 長崎県詩人会編『長崎詩集一九七五年版』	42		作品	少年のいる町	東佐和子	25	
同人消息				同人消息	満ちる	池田慶子	27	
同人名簿				裏表紙	弱るばかりの母	伊福重一	28	
あとがき				裏表紙	断章(一)、断章(二)	田中礼治郎	29	
奥付				作品	白馬の天皇	山田かん	31	34

第四一号 一九七六年一月二五日 発行

エッセイ やさしく誠実な遺失物係―横

ながつたらしい鳥

山本まこと

14

山隆詩集『はこべらのうた』―今村冬三  
おくんちの日のバーバラ・レイノルズ

未明の魚たち  
不意の雨

東佐和子  
東佐和子

34  
35

三十年目の溯行

城取真司  
山田かん

エッセイ  
誌友紹介

第四十一号合評会の記録

藤維夫  
城取真司

36  
37

同人消息  
あとがき

作品

鮎

たけしたしげる  
たけしたしげる

42  
41

奥付

山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』、  
長崎県詩人会編『長崎詩集一九七五年版』

裏表紙裏  
裏表紙

晩秋  
流れる

伊福重一  
伊福重一

42  
42

第四二号

一九七六年三月二五日 発行

螢

池田慶子  
池田慶子

23  
22

作品  
横山隆詩集『はこべらのうた―わが子への書きおき』、  
上滝望観詩集

少年の空  
春一番

今村冬三  
今村冬三

24  
24

作品  
武漢日僑難民キャンプ  
夜景・二題

入江昭三  
都筑修三

表紙裏  
裏表紙

雨

島田とも子  
島田とも子

25  
26

受贈詩誌  
同人消息

春二題  
木蔭

梁井馨  
紅河知沙

エッセイ

船が浮いている  
忘れられた詩人達  
―長崎文学のことなど  
コベルニクスの転回の中で  
根源的判断  
水準原点

塚本貞一  
小国力  
城取真司  
山田かん

27  
28

冬  
の海

紅河知沙  
上滝望観

同人名簿

あつたらしい鳥

山田かん第四詩集『アスファルトに仔猫の耳』、  
長崎県詩人会編『長崎詩集一九七五年版』

29  
30

元日記  
スキヤンダル

山本まこと

13  
14

10  
11

12

10  
11

12

13  
14

13  
14

奥付

裏表紙

第六回九州詩人祭案内  
同人名簿

第四三号 一九七六年五月二五日 発行

作品

カンコロメシ  
森の中の鳥

横山隆  
伊福重一

奥付

中里喜昭『自壊火山』、中里喜昭『ふたたび歌え』

裏表紙裏  
裏表紙

ふしぎな そらについて

上滝望観

\*城取真司は本号から高橋真司と表記。

同人消息 (1)

朝の野

島田とも子

第四四号 一九七六年七月二五日 発行

日を歩む

藤維夫

作品

動物詩抄 (二)

今村冬三

作品

緋の女

梁井馨

誌友紹介

小友の漁師

たけしたしげる

同人消息

若者と詩と音楽と私

紅河知沙

作品

小鳥を飼う

宮原隆之助

作品

破船―それはある詩のように―

伊崎周介

受贈詩集

たとえば長江のような

入江昭三

作品

白い尖塔

伊崎周介

作品

言葉の天皇

山田かん

作品

藁を打つ

伊福重一

エッセイ

第四十二号合評会の記録

山田かん

作品

百姓志願

入江昭三

受贈詩誌

紀元は二千六百三十六年

今村冬三

墓

薄明へ

横山隆

エッセイ

被爆三〇周年の八月一〇日

高橋真司

次郎のたましい

否定の同志

上滝望観

同人消息 (2)

希望の在った場所

中里喜昭

早朝の男

《共感》と民衆情念の集積

藤維夫

26  
35

24  
25

21  
23

17  
20

14  
16

13

12

11

10

9

8  
9

7

6

5

3  
5

2  
2

26  
35

17  
18

15  
16

14  
15

10  
11

9  
10

8

7

6

5

3  
5

2  
1

36

36

35



第四十三号合評会記

入江昭三

19  
22

破壊の唄

——破滅しかけている者のために—— 平島礼二

11  
12

誌友名簿  
編集部より

エッセイ

飢えにはぐれて

中里喜昭

23  
31

エッセイ

次号予告

山口宏

13  
14

受贈詩誌、  
同人名簿

山田かんノート(二)

中里喜昭

23  
31

エッセイ  
同人消息

第四十四号合評会記

山口宏

15  
16

あとがき

高橋真司エッセイ集『広島の倫理』、  
小国力エッセイ集『孤独と愛』

裏表紙裏  
裏表紙

エッセイ

不告発の重い話  
——石原吉郎試論——

今村冬三

17  
22

広告

高橋真司エッセイ集『広島の倫理』、  
小国力エッセイ集『孤独と愛』

裏表紙裏  
裏表紙

誌友名簿  
エッセイ

原爆死ということ

高橋真司

23  
24

奥付

内規

エッセイ

エッセイ

幻覚憎淫の中の夏

山田かん

25  
24

第四五号

一九七六年九月二五日 発行

作品

頭

六月のうた

Tにおける十四行詩

旅立つTに

褐色の水が青くなるとき

伊福重一  
横山隆

2  
3

広告

高橋真司エッセイ集『広島の倫理』、  
小国力エッセイ集『孤独と愛』

裏表紙裏  
裏表紙

36  
36

作品

Tにおける十四行詩

今村冬三

今村冬三

今村冬三

今村冬三

3  
3

奥付

第四六号 一九七六年二月一日 発行

裏表紙裏  
裏表紙

36  
36

受贈詩誌

悲願

藤維夫

原田正路写真特集 長崎の異人墓

入江昭三

5  
6

第四六号

一九七六年二月一日 発行

裏表紙裏  
裏表紙

6  
6

作品

悲願

藤維夫

原田正路写真特集 長崎の異人墓

入江昭三

5  
6

第四六号

一九七六年二月一日 発行

裏表紙裏  
裏表紙

6  
6

受贈詩集

火焰狂想

梁井馨

原田正路写真集

島田とも子

8  
8

原田正路写真集

\*タイトル

(\*一頁、ノンプル無し)

8  
8

作品

陰画の夏

島田とも子

上滝望観

10  
11

エッセイ

\*写真一二枚  
墓と、写真と、芸術と、

(\*一二頁、ノンプル無し)

9  
9

ハイビスカス物語

上滝望観

10  
11

エッセイ

墓と、写真と、芸術と、

原田正路

9  
9

作品	砂のように 交叉点にて 視線の向うに さくら	島田とも子 山口宏 柳生じゅん子 柳生じゅん子	17 18 19 20	お詫び訂正 誌友名簿 同人名簿 あとがき 広告	山田かん	59 59 60 60
受贈詩誌	墓	宮原隆之助 上滝望観	21 22	奥付		裏表紙裏 裏表紙
作品	谷あいのちいさい村 宮原隆之助詩集を読む 秋の構図 魂のプロヴァンス	塚本貞一 梁井馨 今村冬三 今村冬三	23 24 25 26	第四七号	一九七七年二月一五日 発行	
エッセイ	頌め歌 九月一日 暗い夏 海に沈む石	横山隆 松島章子 山田かん 横山隆	27 28 29 30	広告	伊福重一詩集『水辺を駆ける馬』、 高橋真司エッセイ集『広島の倫理』 ローマにて 鳩 川沿いの路 友へ 大瀬崎灯台 駟らされる —アレルギーについての考察— ふと町角で 飛ぶ 水仙	表紙裏 1 2 2 2 3 4 5
エッセイ	「俺の優雅な帰り道」と私	横山隆	31		横山隆	3
内規			32		紅河知沙	4
エッセイ	第四十五号合評会記		33		紅河知沙	5
エッセイ	同入消息		36			
エッセイ	サカ・ハカ・バカ 天皇制にふれて—弘之と辰猪—	原田正路 高橋真司	37 38		伊崎周介	6 7
受贈詩集	池田賢士郎におけるラジカリズムとは何か	入江昭三	43	受贈詩誌	柳生じゅん子	9
エッセイ		山田かん	56	受贈詩誌	柳生じゅん子	9
	広島にて		59	受贈詩集	熊本	10

死神	宮原隆之助	10	あなたへ	伊崎周介	2
霧の街	島田とも子	11	盆	伊福重一	2
すずめ きくについて	上滝望観	12	雨の夢	島田とも子	3
蝸壺	今村冬三	13	つじつまについて	上滝望観	5
なみだーひとと半島のこと	高橋真司	14	ほどく	松島章子	6
詩友名簿	入江昭三	15	同人消息	柳生じゅん子	6
作品	坂井信夫	16	待つ	柳生じゅん子	7
同人消息	田中礼治郎	17	白もくれん	横山隆	7
作品	田中礼治郎	18	レストランにて	田中礼治郎	8
ピエロⅡ	山田かん	19	朝	今村冬三	9
詩片	今村冬三	19	受贈誌紙、受贈著書	紅河知沙	9
水仙	今村冬三	20	交流各誌並びに読者へ	入江昭三	9
豚三頭	今村冬三	21	この掌に熱き	今村冬三	10
エッセイ	今村冬三	21	五島にて	今村冬三	10
第四十六号合評会記	今村冬三	23	ブックカバの眠り	入江昭三	11
「断念の思想」について	今村冬三	24	山口宏詩集エッセイ集「魂の	入江昭三	12
同人名簿	山口宏詩・エッセイ集『魂の原野	28	エッセイ	澤村光博	13
あとがき	このよきものをー詩と教育の座からー』、	28	原野このよきものを」評	高橋真司	15
広告	宮原隆之助詩集『俺の優雅な帰り道』	27	玩具とキュウリとおにぎりと	高橋真司	16
奥付	裏表紙裏	27	第四十七号合評会記	上滝望観	19
第四八号	裏表紙	27	歎異抄の親鸞	今村冬三	21
一九七七年四月二五日 発行	誌友名簿	27		今村冬三	22
作品	同人名簿	28		今村冬三	27
鮎返りの瀧にて	あとがき	28		今村冬三	28
空ー友へー	内規	28		今村冬三	28
	伊崎周介	1		今村冬三	28
	伊崎周介	1		今村冬三	28
	裏表紙裏			今村冬三	28
	裏表紙			今村冬三	28

第四九号 一九七七年六月二〇日 発行

作品	一日または海と魚のある風景Ⅰ きんぐこんぐえれじい 梅雨 鳥の日暮れ 行進 どうみても雀 日は長く くせ	山田かん 今村冬三 松島慶子 島田とも子 柳生じゅん子 横山隆 伊崎周介 伊崎周介	1 4 5 6 7 8 9 10	3 5 5 6 7 8 9 10
同人消息	捕獲器	伊福重一	11	10
作品	受贈誌紙、 受贈著書 夢玲	入江昭三	12 13	13 11
誌友名簿	赤とんぼについて (その一)	上瀧望観	14	15
作品	伊福重一詩集「水辺を駆ける馬」評	高橋真司	15	17
エッセイ	第四十八号合評会記	柳生じゅん子	18 19	20 20
同人名簿	あとがき		20	20
内規				
奥付				

第五〇号 一九七七年八月二〇日 発行

広告	今村冬三詩集『鈍行』			
作品	雨の公園―原爆中心地にて― 浦上川にて 三十三回忌 夕暮れの馬 塩の道 月光 赤い臍	柳生じゅん子 柳生じゅん子 紅河知沙 今村冬三 島田とも子 池田慶子 藤維夫	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
同人消息	坂道	伊崎周介	8	8
作品	赤とんぼについて (その二)	上瀧望観	11	11
受贈誌紙、 受贈著書	一日または海と魚のある風景Ⅱ	山田かん	12	14
作品	崎戸廃坑風悼み歌	入江昭三	15	17
誌友名簿	一九七七年夏	野呂邦暢	18	21
エッセイ	のぞましき源流		21	17
	―吉野弘についての走り書き補遺	今村冬三	22	30
	漢口空襲	入江昭三	30	38
	第四十九号合評会記	島田とも子	39	40
同人名簿	あとがき		42	42
内規				

奥付

裏表紙

追悼池田慶子女士  
池田さんを想う

植木孟  
山田豊

21  
22

第五十一号(終刊号) 一九七七年二月五日 発行

悼句

今村冬三

22

今村冬三詩集『鈍行』

表紙裏

遠い人へ 故池田慶子さんを追悼する 山口宏  
早暁の訃報  
途上に斃れ

入江昭三  
山田かん

22  
23  
24

影の年代記 XV—Y・Kに—

今村冬三

同人消息

もうひとつの(難民詩集)

入江昭三

23  
24

すずめにおくる手紙のひとつ

坂井信夫

エッセイ

入江昭三「不帰河」書評  
十一文半の靴跡  
今村冬三詩集「鈍行」に寄す 入江昭三

坂井信夫

24  
25

旅

上滝望観

エッセイ

入江昭三「不帰河」書評

坂井信夫

25  
26

水無月幻想

島田とも子

エッセイ

入江昭三「不帰河」書評

坂井信夫

26  
29

妻

堀雅己

エッセイ

入江昭三「不帰河」書評

坂井信夫

26  
29

長男

伊福重一

エッセイ

入江昭三「不帰河」に寄す

入江昭三

30  
33

秋

伊福重一

エッセイ

第五十号合評会記

山田かん

33  
36

山峡

紅河知沙

エッセイ

神は砕かれたか  
長崎における反原爆の表現

今村冬三

37  
40

腕

紅河知沙

エッセイ

現代詩にみる系譜(一七)

山田かん

40  
58

受贈詩誌(1)

伊崎周介

エッセイ

旧同人名簿

山田かん

40  
58

作品

藤維夫

エッセイ

(\*無題)

K

58

残亡

伊崎周介

エッセイ

(\*無題)

K

58

魔法と少年

入江昭三

エッセイ

(\*無題)

K

58

遅刻

松島章子

エッセイ

(\*無題)

K

58

ふようの花の咲くころ

柳生じゅん子

エッセイ

(\*無題)

K

58

挽夏

柳生じゅん子

エッセイ

(\*無題)

K

58

受贈詩誌(2)、受贈詩集

山田かん

エッセイ

(\*無題)

K

58

作品 一日または海と魚のある風景Ⅲ

山田かん

エッセイ

(\*無題)

K

58

池田慶子追悼

野地慎生

奥付

入江昭三第二詩集『不帰河』

K

58

急逝を悼む

野地慎生

奥付

入江昭三第二詩集『不帰河』

K

58